お世話になった方々をおもてなし
大浦小で感謝祭を開催

２月15日、大浦小学校（高橋澄夫校長・児童39人）が、学校生活のさまざまな場面でお世話になった地域の方々に感謝の気持ちを表そうと、感謝祭を開きました。感謝祭では、高橋校長が「震災からもうすぐ１年になります。地域の方々のご協力で、本年度の行事も無事に行うことができました。ありがとうございます」と感謝の言葉を述べました。交通指導員や、伝統芸能の指導、読み聞かせでお世話になった方など招待された13人は、児童らとテーブルを囲み、会話を弾ませながらおいしい給食を味わっていました。

山田中で人命救助の授業
命をつなぐ大切さを学ぶ

山田中学校（佐々木毅校長・生徒483人）の2年生男子65人が、２月17日、盛岡市の共立医科器械株式会社（餘目正敏社長）が復興支援として同校２年生に１個ずつ寄贈した学習キットを利用して人命救助について学びました。目の前で人が倒れたと想定し、119番通報から心臓マッサージ、人工呼吸、自動体外式除細動器（AED）の使用までの流れを、付属されているDVD画像を見ながら挑戦。このほか、山田消防署員が同校に設置されているものと同じタイプのAEDの使用方法を解説しました。今後起こりうる状況にためらわずに人命を助けられるように、生徒らは真剣な面持ちで取り組んでいました。

やまだの作文表彰式
入選した41人をたたえる

第40回「やまだの作文」表彰式が２月３日に町中央公民館小ホールで行われ、入選した児童生徒41人をたたえました。このコンクールは、山田ロータリークラブ（阿部幸栄会長）が主催しているもので、町内小中学校から76点の応募があり、昨年11月に審査が行われました。作文のテーマは自由で、子供らが身近に感じたことや思ったことなどを素直に文章で表現しています。式では、阿部会長から出席した入選者一人一人に賞状を手渡し、代表して山田北小６年後藤尚吾君と山田中２年佐藤雅依瑠さんが作文を発表しました。入選作を集めた作文集は、例年約300部を発刊していますが、今回は震災復興の記念号として１万部を印刷し、全国のロータリークラブに贈られます。

今月の題字
山野目 侑姫ちゃん
（船越小１年）

町のわだい

沖縄の人々を支えた音色
カンカラ三線に思いを乗せて

２月20日、山田南小学校（佐賀敏子校長、児童260人）で、沖縄県の復興支援団体おでんそーれ（横田泉代表）のメンバーによるカンカラ三線作りが行われました。横田代表と交流のある当町出身の精神科医佐々木清志さんが被災地の子供のためにと企画したもので、５年生45人が参加。メンバーの指導のもと空き缶を利用した三線製作に取り組みました。でき上がった三線をシールなどで飾り終えると、教室には早速カンカラ三線独特の温かい音色が鳴り出していました。

地デジの準備はお済みですか
デジサポ岩手が声かけ作戦

デジサポ岩手が２月14日、地上デジタル放送（地デジ）完全移行への呼びかけ運動「声かけ地デジ化大作戦」として、町の無料公衆浴場「御蔵の湯」で地デジ化周知イベントを行い、無料相談や地デジカの湯桶とタオルを来場者に配布しました。この活動は、アナログ放送終了が３月31日に迫り、地デジ完全移行への周知を行おうと県内全域を対象として活動が行われているほか、町民の方に支援をしたいとの思いから開かれました。湯桶とタオルを受け取った町民は、「ありがとう。地デジ準備しました」と笑顔で答えていました。

全国で絵画展を開催
子供たちが描く未来の山田

町内の小学３～６年生370人が「将来の山田」をテーマに描いた「夢・未来の山田絵画展」が、１月に京都府京都市、２月８日には青森県弘前市で開かれました。これは、陸中山田ライオンズクラブ（千坂清一会長）が子供たちの心のケアにと絵の制作を提案し、開催地の各ライオンズクラブが主催したものです。作品には、養殖いかだでカキを育てる人など被災前の生活を大切に思う気持ちを表現したものや、山頂に立つ学校など安全な町づくりの夢を託したものもあり、多くの人が絵画に見入ってました。同絵画展は、３月１日～４月１日まで全国のイオンモール100店舗で開催されます。